



積み重なった業務と課題を整理する時 「同じ景色」を見て団結しよう!

地域包括支援センター（以下、包括）の今とこれから。現場の支援者たちはどのように感じているのだろうか。秋田県介護支援専門員協会に所属する包括と居宅のケアマネジャー（以下、ケアマネ）の座談会を開催し、現状認識や課題感を洗い出し、その対応策を検討した。課題は山積みだが、参加者全員の目線が同じ「地域の住民の生活」に向いていることが、大きな光だった。



石郷岡良彦さん

御所野地域包括支援センター
けやき 管理者



川端洋祐さん

みんなのまち由利本荘
居宅介護支援事業所、
秋田県中央地区介護支
援専門員協会 副会長



須田裕人さん

羽州人ヒーリング
カンパニー 代表



松本慶一さん

企業組合ほっと 代表理事、
秋田県中央地区介護支援専
門員協会 会長



綿貫 哲さん

企業組合ほっと 理事、
秋田県介護支援専門員
協会 理事

課題や役割を整理するとき 実情に合わせ人員や圏域の見直しを

——地域包括ケアシステムの中核機関として包括が誕生してから20年が経過しました。業務範囲や役割が拡大していますが、現状はどうでしょうか？

石郷岡さん 地域の現状としては、高齢者世帯、なかでも独居や高齢者のみの世帯、家族や地域とのつながりの希薄化で孤独・孤立している方、複合的な課題を抱えているケースが増えています。このような地域住民の変化に伴い、包括の事業範囲が幅広くなっています。包括の設立当初は、総合相談、権利擁護、介護予防ケアマネジメント、包括的・継続的ケアマネジメント支援の4つが事業の柱でしたが、この数年で認知症施策や、生活支援体制整備事業等が追加されました。介護予防への対応も増え、地域の支え合い等の多様な支援の創出にもますます注力する必要があります。

須田さん 独居で身元保証が得られないケースや、利用者さんの自宅に伺った時に引きこもりや精神障害を持っている

お子さんがいたり、複合的な課題を持つ家庭が増えて、包括さんに伴走してもらっています。多様な支援のために、精神保健福祉士等、配置を増やすと良いかもしれません。

川端さん 総合相談窓口の初期対応もあり、介護保険に限らず、地域で暮らす人みんなのワンストップ窓口ですよね。このままだと包括さんは10人以上の体制じゃないと回らないのではないのでしょうか。

石郷岡さん 人員も必要ですし、多くの専門職との連携が欠かせないと思います。須田さんのおっしゃるように、3職種以外に精神保健福祉士やリハビリ専門職等、分野の違う専門職が配置されれば、より幅広いニーズに対応できますし、多忙による離職も少し軽減するかもしれません。

綿貫さん 住民の多様なニーズに対応するため、支援者には、専門職に留まらない人的ネットワークが求められると思います。多忙で、人材育成のために時間や費用をかける余裕があまりないのではないのでしょうか。せっかく育てても、異動をしてしまうという構造的課題もありますよね。